

混迷する日本の大学入試改革を乗り越える 世界比較と当事者（高校生）の視点から

I. 混迷する高大接続改革

1. 世界的に特殊な日本の高大接続
2. 結局中途半端な日本の高大接続改革
3. 高校生を“その気”にさせる大学への道筋を、
いかに“デザイン”するか

II. 当事者（高校生）の視点から考える

出光 直樹（横浜市立大学）
idemitu@yokohama-cu.ac.jp

講師プロフィール

- 1985年 明星学園高等学校(東京都三鷹市) 卒業
- 1990年 札幌学院大学人文学部人間科学科卒業
- 1997年 桜美林大学大学院 国際学研究科 博士前期課程修了
 - ・ 1999年博士後期課程中退 (専門は高等教育論)
- その他、米国のコミュニティカレッジ、豪州の大学院に遊学。
趣味で放送大学を3回卒業。

- 1999年10月桜美林大学職員(大学教育研究所、アドミッションセンター)
- 2005年9月より横浜市立大学 アドミッションズセンター
→ アドミッション課 専門職・学務准教授
- 2014年～2018年には、桜美林大学大学院 大学アドミニストレーション研究科で授業科目『大学アドミッション』を、非常勤講師として担当。

このワークショップを通じて 皆さんに願うこと

- 皆さん一人一人が、納得のいく大学選び、受験、進学を果たしてください。
- また、縁あって進学した大学で、思う存分学び、自信をもって学生生活を過ごしてください。
- 正解は与えられるものではなく、広い視点から考えることで、自分なりに納得を見出すものだと考えてください。

日本の大学入試の全体像

入試	特徴	時期	併願
AO入試 ↓ 総合型選抜	やり方に様々なバリエーションがあるが、基本的に“自己推薦型”の入試。 国公立大学では共通テストを課すものもある。	9月以降	×が多い
特別入試 ↓ 特別選抜	帰国生、留学生、社会人などの特別な属性の者を対象にした入試。筆記試験＋面接が多い。	様々	○が多い
推薦入試 ↓ 学校推薦型選抜	【指定校制】志願→合格→入学が前提 【公募制】小論文＋面接での競争試験が多いが、国公立大学では共通テストを課すものもある。	11月以降	×が多い
一般選抜	基本的に学力試験のみが主で、一部に面接や実技試験なども課される。 国公立大学は必ず共通テストを利用する。	2月以降	○

ざっくりとした近年の日本の大学入試の流れ

- 1990年頃まで
 - 18歳人口が増え続けるも、大学の数は抑制されていて、厳しい受験競争や偏差値偏重の進路指導が問題とされる。
 - 推薦入試は一つの対応策として、ある程度実施される。
- 1990年代
 - 18歳人口の減少が始まるが、大学の数は増えだし、受験生の獲得競争へ。一般入試の科目削減などが広がりだす。
 - 慶應義塾大学を皮切りにAO入試が始められ、1990年代末には国立大学にも広がる。

- 2000年以降
 - 大学生の学力低下が問題とされるように。受験競争の緩和や入試の軽量化が原因と考えられる。
 - 学力試験は原則として課さないとしてきた、推薦入試やAO入試でも、学力把握の措置を講ずることが望ましいとされるように。
- 2021年度入試での改革方策
 - 入試名称の変更 (eg AO入試 → 総合型選抜)
 - 主体性評価
 - 調査書の書式変更・頁数の弾力化。
 - 大学入試センター試験から大学入学共通テストへ
 - 記述式の導入 → 延期
 - 民間英語4技能試験の抱き合わせ → 延期

統一入試型



大学

統一試験

中等教育機関

- 国家レベルの統一試験が実施されるタイプ。
 - 中国： 高考（全国普通高等学校招生入学考試）
 - 韓国： 修能（大学修学能力試験）
 - 台湾： 学測（大学学科能力測驗）
- ただしこれらの国においても、統一試験に拠らない選抜方式が導入されている。
 - 韓国の入学査定官制度（AO入試）

中等教育修了資格試験型

大学

- 中等教育(高校)の修了資格試験が国家(州)レベルで制度化され、それが大学入試の機能も兼ねている国や地域。ヨーロッパ諸国やその影響を受けている旧植民地諸国などに多くみられる。
- 中等教育修了の水準が比較的高めで、日本の高校卒業生が大学入学を希望する場合に、1年間の進学予備課程 (Foundation Course)の修学を求められる国も多い。

予備課程

英: Aレベル、仏: バカロレア、独: アビトゥア、
NZ: NCEA、香港: HKDSE、国際バカロレア、etc

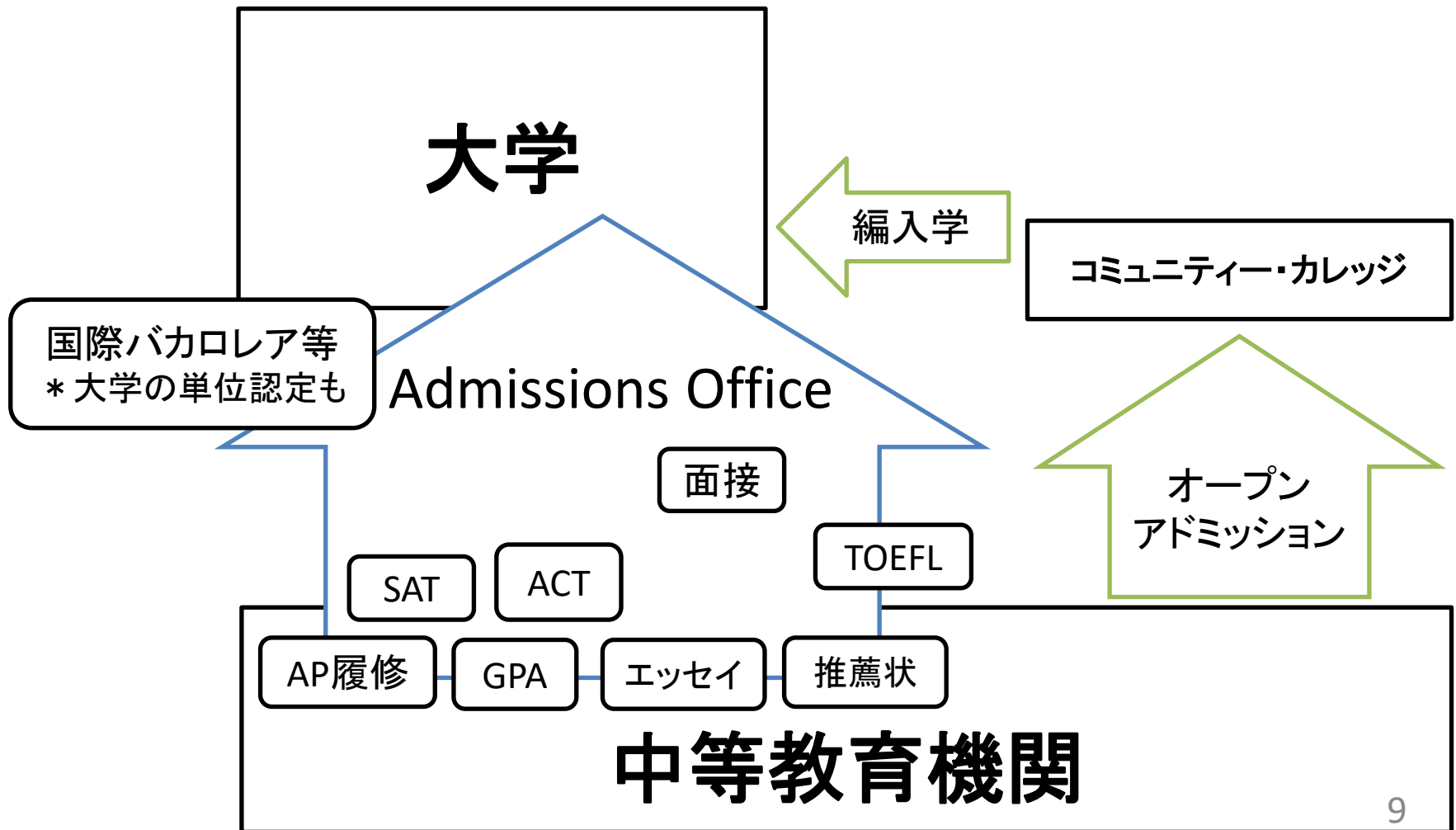
中等教育修了資格試験

中等教育機関

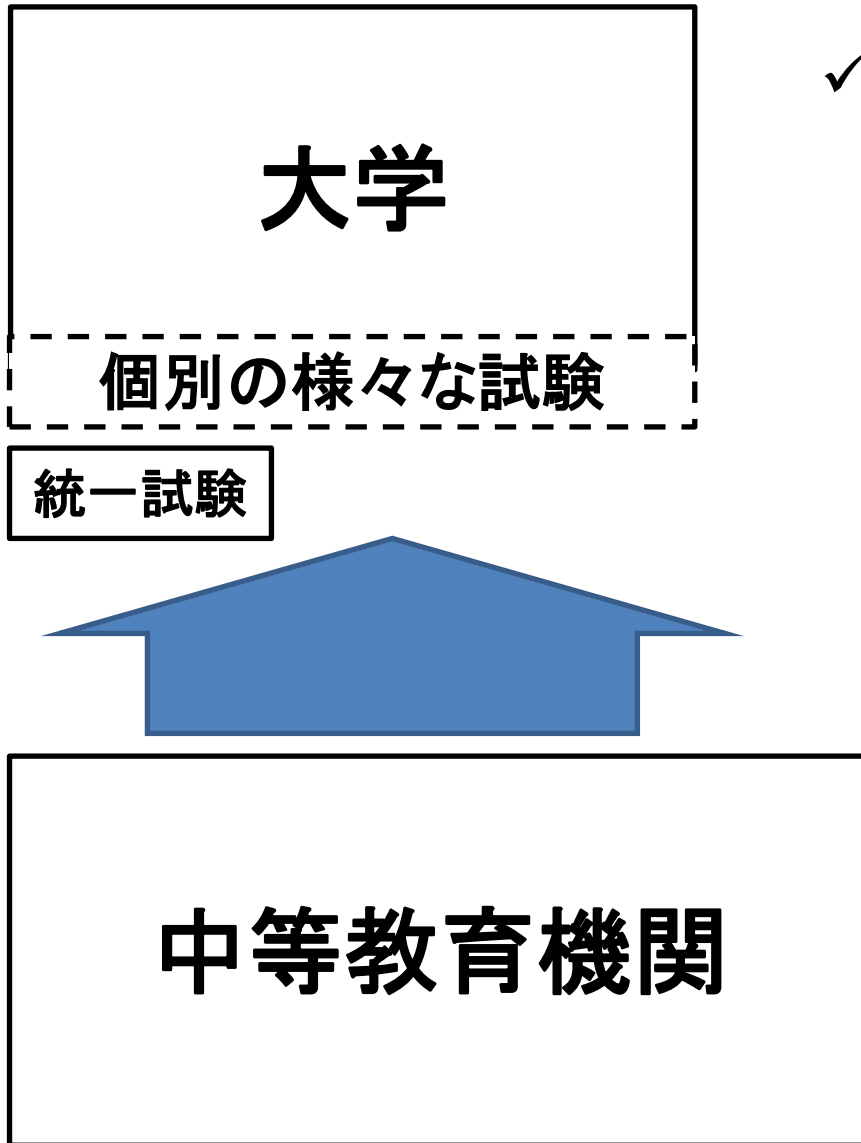
水準の低い国の
中等教育機関
(含む日本)

アメリカ型

- Admissions Office（入学者選抜室）の専門職員による書類審査が基本。
- 書類審査の材料として、様々な材料（標準テストも含む）を用いる。



日本は・・・



- ✓ 日本は部分的に統一試験を実施活用するが、基本的には各大学が独自の試験を実施する、世界的に見て独特なスタイル。
 - － 一般入試、推薦入試、AO入試、留学生入試、帰国生入試、社会人入試などなど、日本の大学入試は、他国に例を見ないほど多様。

結局中途半端な日本の高大接続改革

- 高校生の「学力把握」 & 受験生の「選抜」
 - 諸外国のような中等教育の達成度を測る制度の無い中で、我が国は受験競争の圧力によって高大接続のための学力担保が図られてきた。
 - しかし、少子化による高等学校や大学への全入時代を迎え、高等学校の教育課程の多様化と大学の選抜機能の低下により、高等学校における基礎的教科・科目の普遍的な履修とその学力の担保が機能しなくなった。

【参考文献】

渡邊 一雄 編(2010)『大学の制度と機能』

<https://amzn.to/333IHU3>

佐々木 隆生 (2012)『大学入試の終焉：高大接続テストによる再生』

<https://amzn.to/36kVH9W>

忘れられた「学力把握」の仕組みづくり

- 「高大接続テスト」(2010/9)
 - 大学入試センター試験は、基本的には各大学における選抜の判定資料となる**集団準拠型**の試験であり、これを基礎学力の達成度測定の為の試験として利用するのは不可能。
 - それゆえ「高大接続テスト」はセンター試験の改変ではなく、**目標準拠型**の新たなテストとして設計し、段階評価や複数回実施を取り入れる。



- 「高等学校基礎学力テスト」(2016/3)
 - 当面は大学入学者選抜(や就職)には活用しない。
- 「高校生のための学びの基礎診断」(2017/7)
 - 共通試験ではなく、一定の要件を満たした民間の試験等を認定。

大学入試センター試験と 後継試験に対する過剰な期待

- 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」
 - 「高大接続改革答申」(2014年12月)
 - 「合教科・科目型」「総合型」問題の導入、記述式の導入、段階評価による成績提供、CBT実施を前提、複数回実施の検討
 - 「高大システム改革会議 最終報告」(2016年3月)
 - 「合教科・科目型」「総合型」問題は消える。マークシート式(素点)と記述式(段階評価)の併用、CBTは先送り、マークシート式と記述式の別日程で何とか複数回？
- 「大学入学共通テスト」(2017年7月)
 - 英語は認定された民間試験(4技能)と共通試験(2技能)の併用、「国語」「数学Ⅰ」「数学ⅠA」で記述式を併用、実施日程は現行どおり、成績提供は1週間遅れる。

コスト・パフォーマンスを省みない入試改革 (センター試験 ～ 共通テスト)

- リスニング試験の導入(2006年度～)
 - 試験時間の約9%、配点(素点)の約5%に対して、マニュアル(監督要領)に占めるページ数は約38%!
- 公民・理科での2科目受験方式(2012年度～)
 - 科目選択の弾力化と引き換えに、120分かけて1科目を解答する“裏技”と、それを封じる「第1解答科目」縛りの登場。
- 記述式問題(~~2021年度～~~ → 延期)
 - 50万人規模でかつ日程の限られた中での無理な要求。
- 英語4技能資格(~~2021年度～~~ → 延期)
 - 4技能の一体的評価への無意味なコダワリ
→ 従来型英検の不採用とTOEICの離脱。

高校生を“その気”にさせる大学への道筋を、 いかに“デザイン”するか

- 現在進められている入試改革は、大学進学者層のほんの一部にしか影響を与えていない。

山村 滋／濱中 淳子／立脇 洋介(2019/8)

『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるのか』ミネルヴァ書房

<https://amzn.to/2PxIIINl>

日本経済新聞(2019/8/12)

「2020年度の大学入試改革 高校生「学習離れ」防げず」

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO48406810Z00C19A8CK8000/>

- 2012年4月から3年間にわたって首都圏の公立高校(地元で1番手とみなされる進学校4校、3～4番手ほどに位置付けられる中堅進学校6校)の生徒約3300人を対象とした追跡調査による研究。
- “入試改革”は一部の進学校の生徒にしか影響を与えておらず、多くの高校生の学習行動の活性化には結び付いていないことが示唆される。

日本の環境における入試のデザイン

- 競争的選抜に用いる為の集団準拠的な指標と、母集団の設定や底上げの為の目標準拠的な指標の正しい使い分けと組み合わせ。
 - 共通試験、個別試験、外部資格の役割分担。
 - 1点刻みの一発勝負の納得性。
- 推薦入試(特に指定校制)という知恵
- 中間層の高校生のための、目標準拠型標準テストの国家的必要性。

当事者（高校生）の視点から大学入試を考える